

## 社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2024. 9  
No.373

### 意思

(稲盛和夫『考え方』より)

高い目標を達成したいならば、

「何としても、まっすぐに頂上を目指して、

登っていく」という強い意志を抱き、

垂直登攀の姿勢で挑まなければなりません。

世界一になろうと思うなら、それに合う

ような哲学、考え方がいるはずだと思いま  
した。

近所の小高い丘にハイキング気分に登  
っていくのと、世界最高峰の、それも冬山  
に登っていくのでは、装備も違うだろう  
し、トレーニングも違うはずだ。

前文の稲盛さんの言葉を、私の経験に置  
き換えお話しします。

「沖繩―東海ヨットレース」で優勝すること  
を目標に掲げ、数年かけて準備をし挑みま  
した。結果として私の所属するヨットチーム  
は、2年に1度開催されるレースで2回連続  
優勝を果たすことができたのです。

目標を決めてから、艀装の準備やクルーの  
手配をし、チームプリーの訓練を重ねるなど、  
チーム皆の努力は並々ならぬものでした。

三河湾のただけでクルージングをしていた  
ならば、到底「沖繩―東海ヨットレース」には  
参加できなかったと思います。大きな目標を  
持つことで、日本で開催される最長距離の外  
洋レースに出場することができ、安全航海・  
役割分担・気象状況の読み・クルーの健康・セ  
ーリング技術など、様々な力が鍛えられたの  
です。

ほぼ5日間ヨットを止めることなく、風だ  
けで沖繩から蒲郡まで3直体制でセーリング  
することで、皆の力はさらに上達することが  
出来ました。それだけの力量を持つてすれば、  
素人には厳しい海況でも、三河湾内ではそれ  
なりに安全な航海も可能だと考えておりま  
す。(決して三河湾を軽く見ているわけでは  
なく、海は怖いと思っています。)

会社経営においても、規模は小さくとも

考え方だけは上場企業並みの大きな目標を  
掲げること、日々努力を積み重ねること  
よって次への道も見え、会社を永続できると  
考えております。

高い目標をあえて定め、

真正面から取り組む

(稲盛和夫『考え方』より)

世界一を目指すのであれば、それにふさ  
わしい生真面目で高邁な哲学、考え方が求  
められるはずだ。

今、イナテックでは『企業理念を共に学ぶ  
会』を開催し、課長職以上の皆さんとイナテ  
ック企業理念を整理しています。やはりそこ  
でも、前文でご紹介したような「真面目」  
「哲学」「考え方」がぶれないよう議論を  
重ねております。そしてそれがイナテックフイ  
ロソフィーとして残ることを願っております。

## 勇氣

(稲盛和夫『考え方』より)

勇氣とは腕つぶしに自信があるとか、ケンカに強いといった蛮勇ばんゆうではない。

もともとはおとなしい性格で、

怖がりな慎重な人間が、

修羅場しゅらばを何回もくぐり、

場数を踏んで度胸をつけていくなかで

身につくのが真の勇氣です。

社員たちを絶対に路頭に迷わせてはならない、という強い思いが湧きあがりました。何としても、この会社を潰してはならない、何としてもこの事業を成功させなければならぬという一念で、私の頭はいっぱいでした。そうした「会社を守らなければならぬ」「従業員を守らなければならぬ」という義務感、責任感が私に勇氣を与えてくれました。

どのような困難に遭遇しようとも、勇氣を持って事に当たることが、たいへん大事だと私は思っています。

この勇氣を生み出す源泉が、相手への思いやりです。自分を捨て、自分はどうなってもいいと思い、相手のために尽くそうとすれば、真の勇氣というのは出るものです。

皆さん『ファーストペンギン』の話を知っていますか。前文でご紹介させていただいた『勇氣』から、南極に生息しているペンギンの行動

を思い起こしました。自然界でも人間の世界と同じことが起きているのです。

子ペンギンに餌を与えるために、親ペンギン達は集団で漁に行きます。冰山から何十メートルも高低差のある海へ飛び込むのですが、さすがどのペンギンも躊躇します。しかしその大群の中で、ある一匹のペンギンが最初に飛び込むのです。(それが毎回同じペンギンかは定かではありませんが…)すると次から次へとペンギン達が海に飛び込んでいきます。

この最初に飛び込むペンギンを「ファーストペンギン」と呼んでいます。

我々人間社会においても、会社においても、最初に行動する勇氣やリーダーシップが重要です。イナテックグループでも「ファーストペンギン」のような人財をたくさん育成し、勇氣を持って行動できる組織にしたいと思っております。

イナテックグループを「もつといい会社」「もつと楽しい会社」にして、次の発展に繋げていきます。

皆様の御理解と御協力をお願いします。

## 菜根譚後集

一〇四

爽口之味、皆爛腸腐骨之藥。五分便無殃。快心之事、悉敗身喪德之媒。五分便無悔。

人の口を喜ばせる美味は、(度を越しやすいので)、皆、胃腸をただらせ骨を腐らせる毒薬となる。ほどほどにして度を越さなければ、まあ害はない。また、人の心を喜ばせる楽しみごとは、(度を越しやすいので)、すべて身を誤り徳を失う原因となる。ほどほどにして度を越さなければ、まあ悔いはない。

